

井上秀齋年表

年	秀齋に関する事柄	その他の事柄
1854 (嘉永 7)	・8月20日岐阜県本巣郡席田村字春近に、蘭方医井上齡碩の長男として誕生	・日米和親条約締結（以後、蘭・英・露と締結）
1858 (安政 5)		・日米修好通商条約締結（以後、蘭・露・英・仏と締結）（安政の五カ国条約）
1859 (安政 6)		・開港（横浜・長崎・函館） ・パリ外国宣教会の最初の宣教師来日
1865 (元治 2)		・信徒発見（長崎大浦天主堂）
1868 (明治元)		・明治政府発足 ・五榜の掲示（キリシタン禁制を含む）
1870 (明治 3)	・母ウメを亡くす ・本巣郡数屋村の英語学校へ入学（英語学校はわずか数か月で揖斐村に移転）	
1872 (明治 5)		・パリ外国宣教会、濠端一番町にラテン学校を開設
1873 (明治 6)		・キリシタン禁制の高札撤去 ・浦上キリシタン釈放
1874 (明治 7)		・ラテン学校神田猿楽町に移転
1875 (明治 8)	・上京し、浜松町の内科産婦人科医師浜田叔甫の代診生となり、某英語学校に通う ・南部藩出身の真田某の紹介で、ラテン学校に入学する ・8月レゼー神父より受洗する ・ラテン学校閉校後、ヴィグラー神父の下で神学の研究を始める	
1876 (明治 9)		・日本代牧区を南緯代牧区と北緯代牧区に分割（南緯代牧区にプチジャン神父を任命）
1877 (明治 10)		・ラテン学校閉校
1878 (明治 11)	・7月上旬夏休みを利用してヴィグラー神父を浜松に訪ね、一緒に春近に帰省する ・二人の妹（宮野 23 歳と岸江 13 歳）がヴィグラー神父より受洗する ・帰京の途中、名古屋区（現在の名古屋市）本町一丁目の銭屋という旅館に一泊し、名古屋藩預かりになったキリシタンの話を聞く	・北緯代牧オズーフ神父来日 ・ヴィグラー神父を北緯代牧区の最初の巡回宣教師に任命
1879 (明治 12)	・7月上旬ヴィグラー神父と浜松の信者 2 名とともに春近を訪れ、父齡碩氏（56 歳）と齡碩氏の実父永井純策氏（84 歳）がヴィグラー神父より受洗する	・テストヴィド神父を北緯代牧区の 2 人目の巡回宣教師に任命
1880 (明治 13)	・8月テストヴィド神父とともに春近に巡回にきたが布教はうまくいかず名古屋・伝馬町の旅館木屋へ移り 2 週間余り滞在して伝道を試みる ・テストヴィド神父と協議し広小路の栄座という劇場を借り 2 晩続けて宗教演説をする ・秋頃浜松教会の伝道士となり、ヴィグラー神父を助けて働くことを命ぜられる	・8月、テストヴィド神父は東海道筋を愛知・岐阜まで巡回宣教
1881 (明治 14)	・夏に東京から来たエヴラール神父を春近に案内、その後、名古屋から岡崎、明知、苗木、黒川、岐阜を	・ヴィグラー神父と交代し、テストヴィド神父が神奈川県から静岡県を

	<p>経て金沢、白山の麓の道を通って名古屋に帰る視察旅行をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月秀齋の名義で南呉服町二丁目に一軒家を借りて仮教会とする ・仮教会での洗礼式の後、仮教会の留守番を高木氏に依頼して、エヴラル神父とともに上京し、築地教会に住んで、ヴィグラー神父指導のもとふたたび神学の研究を続ける 	愛知県・岐阜県に及ぶ担当に変更
1882 (明治15)	<ul style="list-style-type: none"> ・侍祭の位となる ・戸籍調査により長男であり家督を相続する人が他にいないため司教より司祭になることを禁じられ東京を去る 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～5月テストヴィド神父の巡回宣教(相模、伊豆、駿河、遠江、三河、尾張、美濃(東海道筋))
1883 (明治16)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月春近に戻り、父と協議して岐阜県下のカトリック布教に挺身する決心を固める ・毎週木曜日の午後から次の月曜日の午前まで、5つの講義所を巡回する活発な宣教活動を行なう ・11月祖父ピオ永井純策氏が帰天 ・11月エヴラル神父が純策氏の埋葬式を挙行(明治20年ごろまでエヴラル神父が毎年東京から名古屋を訪れていたか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・9～12月テストヴィド神父の巡回宣教(豊橋・名古屋・岐阜等22か所で説教)
1885 (明治18)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋ごろのものと思われる信者数を秀齋は「名古屋ニ10名余、高須ニ28名、大垣ニ3名余、岐阜ニ15名余、春近ニ4名ノ奉教者アリ」と記載している 	
1887 (明治20)	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋の主税町に秀齋の名義で土族屋敷千坪(名古屋法務局の登記簿によると420余坪)を1坪50銭で購入し、その一隅に建っていた武家屋敷を教会に改造する ・岐阜県本巣郡席田村村会議員となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・テュルパン神父が名古屋・岐阜地方の巡回宣教師となる ・岐阜の秋津町に仮教会設立 ・主税町の仮教会に啓蒙小学校開校(1900年以降次第に衰微) ・岐阜教会以外のすべての講義所を閉鎖
1888 (明治21)	<ul style="list-style-type: none"> ・席田村避病舎主治医となる ・7月下旬テュルパン神父とともに東濃地方を巡回する 	<ul style="list-style-type: none"> ・南緯代牧区を、中部代牧区と分割 ・主税町教会敷地内に小学校を設立 ・11月オズーフ司教は主税町教会で13名の堅信式、14名の洗礼式を挙行、翌日岐阜教会で14名の堅信式、4名の洗礼式を挙行
1889 (明治22)	<ul style="list-style-type: none"> ・伝道士をやめ本巣郡医師会副議長に当選する ・医業の傍ら毎年450名の臨終者に洗礼をさずける 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月大日本帝国憲法第28条による信教の自由規定制定 ・テュルパン神父が岐阜教会を廃止して、岐阜から完全に撤退 ・テストヴィド神父が神山復生病院を創設
1890 (明治23)		<ul style="list-style-type: none"> ・長崎教会会議を開催 ・主税町教会に救老院設立
1891 (明治24)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日午前6時40分ごろ濃尾地方一帯を襲った大地震の負傷者の救助にあたる ・濃尾大震災宮内省北方町治療所委員に任ぜられる ・築地教会のオズーフ司教に看護婦の派遣を依頼し、3名のサン・モール会修道女志願者が秀齋宅に寄宿する ・妻子のみ北方町に転居し、秀齋は同所へ出張して医院を開業することとなり、入用の荷物を送り妻の実父のみを宿泊させ翌日妻子を送る ・テュルパン神父の指示で教会のため敷地を買い受け救老院を設けて伝道を試みるが失敗に終わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・北緯代牧区を函館司教区と分割

1892 (明治 25)	・4月2日主税町教会の土地が井上秀齋名義で登録される	・エヴラール神父が豊橋巡回をやめ、テュルパン神父がその任を兼任
1893 (明治 26)		・オズーフ司教が主税町教会で堅信式と洗礼式を挙げる
1894 (明治 27)		・テュルパン神父は岐阜市南柳沢町に再び巡回教会を設立し、豊橋教会で働いていた長谷川伝道士を住ませ、豊橋教会に寺尾氏を伝道士として派遣 ・日清戦争開戦 (-1895)
1897 (明治 30)	・7月30日秀齋名義で登録されていた主税町教会の土地所有権が5名に分割贈与され、それに秀齋を含めた計6名の名義で教会の土地が登録される (1900年頃に解消)	
1898 (明治 31)	・この年まで春近で産婦人科診療にあたり翌年北方町へ移る【糸貫町史】	
1900 (明治 33)	・5月岐阜および北方地方在住の信者20数名とともに岐阜に立ち寄ったオズーフ司教に会い、この地方の名物の美しいちょうちん2個を贈呈する	
1903 (明治 36)		・12月テュルパン神父富山へ転任
1904 (明治 37)		・主税町に聖堂建設 ・日露戦争開戦 (-1905)
1914 (大正 3)		・第一次世界大戦開戦 (-1918)
1922 (大正 11)		・2月富山・石川・福井・愛知・岐阜の五県を管轄する名古屋使徒座知牧区創設、パリ・ミッション会から神言会に移譲 ・新潟教区長ライネルス師が名古屋使徒座知牧区臨時管理者に任命
1924 (大正 13)	・2月8日付で井上秀齋回想録 (J) を書き記す	
1926 (昭和元)		・名古屋知牧区長にライネルス師任命 ・神言会は岐阜市長住町に民家を借りて教会を設立、岐阜における本格的な布教が開始
1930 (昭和 5)		・主税町教会に名古屋使徒座知牧区長館 (現司祭館) を建設 (マックス・ヒンデル氏設計)
1939 (昭和 14)		・第二次世界大戦開戦 (-1945)
1941 (昭和 16)		・ライネルス神父が名古屋使徒座知牧区長を退任し、松岡孫四郎神父が就任
1942 (昭和 17)	・12月17日帰天 (89歳)	